

みなみやまちょう

南山町遺跡(本発掘調査B)

所在地 江南市南山町東地内
(北緯35度18分51秒 東経136度52分50秒)

調査理由 一般国道155号道路改良工事

調査期間 令和3年12月～令和4年3月

調査面積 700㎡

担当者 堀木真美子・武部真木



調査地点 (1/2.5万「小牧」)

調査の経過 調査は、愛知県建設局道路建設課による一般国道155号道路改良工事に伴う事前調査として、愛知県県民文化局を通じた委託事業として実施した。調査対象地は現道南側の拡張部分であり、昨年度調査区西側のAa・Ab区、同東側のB区について、計700㎡の調査を行った。

立地と環境 遺跡の所在する江南市は、尾張北部の犬山扇状地の扇央部に立地する。調査遺跡は市域の南東部にあたり、隣接する大口町との境界に近い五条川右岸の標高約16mの自然堤防上に立地する。周辺一帯には多数の古墳が分布し、調査地点のすぐ北側には『尾張名所図会』にも記載のある富士塚古墳、南東方向約1.0kmには全長約60mの規模をもつ6世紀の前方後円墳、曾本二子山古墳などがみられる。五条川対岸には飛鳥～奈良時代の集落跡である白木遺跡が位置する。

調査の概要 調査範囲は、現在南流する五条川右岸域の自然堤防および後背湿地の地形を横断する形となる。西端のA区は犬山と岩倉方面を結ぶ柳街道(岩倉街道)に近接すると考えられ、また東端のB区は旧五条川に続く谷地形が想定された。両者の間の昨年度調査区は遺構・遺物ともに希薄ではあったが、古墳時代の溝、奈良時代の溝・土坑、平安時代の土坑、鎌倉・室町時代、江戸時代の遺物が出土している。

A区では国道整備に伴う整地層等を除去すると、攪拌された層厚20cm前後の褐色シルト質砂層がみられ、これには炭化物、土器、須恵器、灰釉陶器、山茶碗の細片が多数混じる。その下には暗褐色砂質土に基盤層が混じる堆積層が5～40cm、西側に厚く東側は調査区南壁付近にのみ認められる。旧地形の起伏に関連すると思われるが、現況からはほぼ推定できない。この暗褐色土下位から基盤層上端で遺構検出を行なった。

主な遺構には、古墳時代の須恵器を含む土坑、古代の竪穴建物1棟、中世の区画溝、時期の不確定な土坑・ピットがある。Aa区東部の南壁際の不定形の凹み(036SK)には須恵器高坏、無台坏、土師器が含まれる。凹みの下層(079SK)には土器等はないものの大型の河原石2点が含まれ、さらに下に続く円形土坑(087SK)も壁面で検出した。溝(020・026・029SD)は検出長17.4m、南西から北東方向にほぼ直線状に延び、幅約90cm、深さ32cmである。また、建物の復元はできなかったが、この溝に先行して上端で径60～80cmの掘方、深さ50～80cmのピット(045・023・050SK)がある。出土遺物の須恵器高杯は灰白色を呈し美濃須衛窯製品の可能性がある。溝の埋土上層で13世紀半ばを中心とした山茶碗(尾張型、東濃型)、片口鉢がややまとまって出土している。

まとめ 調査終盤にAb区にて竪穴建物が検出され、周辺に古代の集落の広がりが見えてきた。市域の遺跡調査は少なく、貴重な事例である。(武部真木)



遺跡遠景と柳街道(南から)



Aa区 全景(写真上が北)



Aa区 南壁東端付近(北西から)



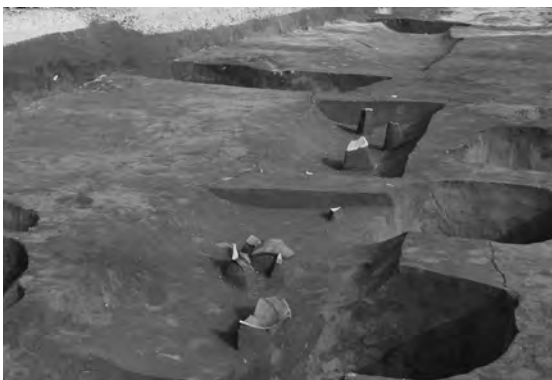
Aa区 023SK(西から)



Aa区 南壁東端付近 須恵器出土状況(北東から)



Aa区 042SK須恵器出土状況(南西から)



Aa区 020SD(西から)



Aa区 020SD片口鉢出土状況(北から)